

「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多くありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の **竹1** 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。

※**濃い赤線の道**は、古図を元に現在の土地の痕跡や、過去の航空写真を参考に記入しました。



37. 五街道の道しるべを巡り歩く その五「竹内街道」 後編

旧オキナ酒造場から東へ進みます。南から来る巡礼街道と交差し、ここで巡礼街道は本線（近道・西ルート）別ルート（東ルート）に分かれています。



西から



東から

竹12

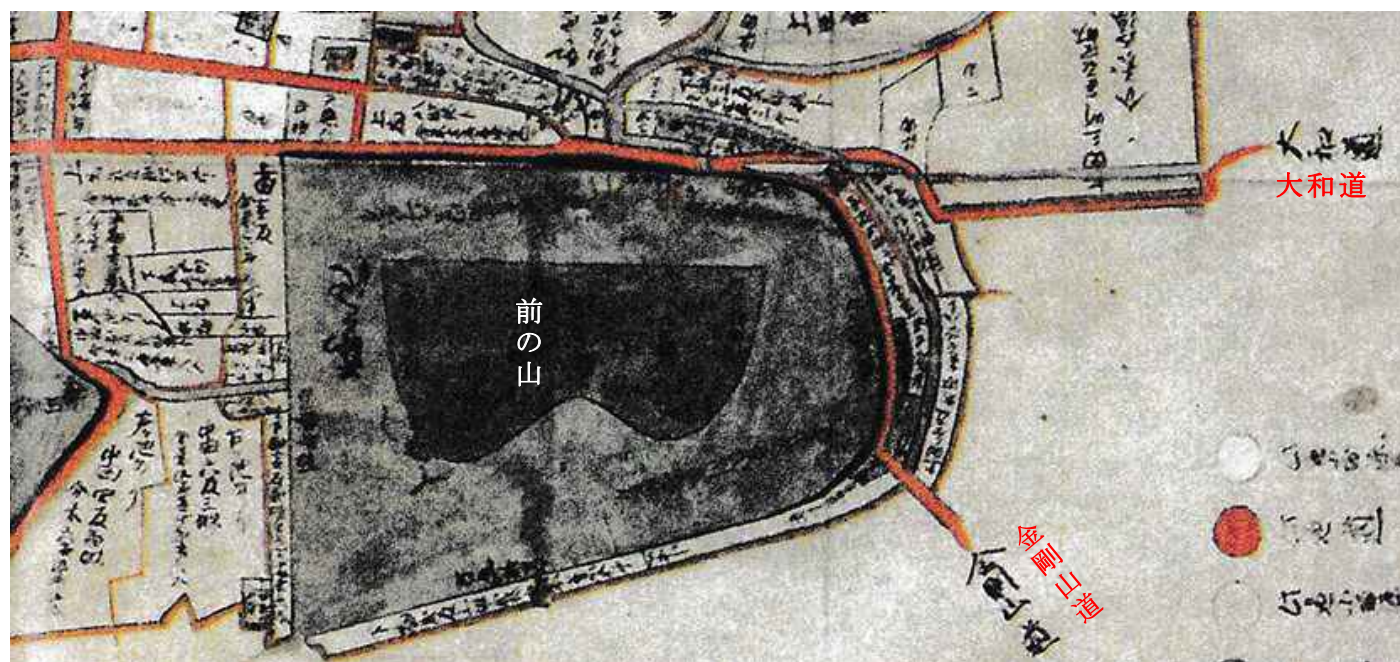


西面

設

⑥ 巡礼街道と竹内街道の合流部分に立てられているが、上部が欠損し、西面の基底部に「設」の一字残るのみとなっている。大正年間に大阪皇陵巡拝會が建立した御陵案内道標と思われる。西面基底部以外は不明。
(巡礼街道と同じものです)

四つ辻を東へ進むと右手に白鳥陵古墳が見えてきます。濠幅が 30m～50mに及びます。



軽里の旧村絵図（部分） 延宝 5 年（1677）



白鳥陵古墳

竹 1 3



広い濠幅



東 面	西 面
仁賢天皇 日本武尊御陵参拝道 清寧天皇	大阪皇陵巡拝會建設

⑦ 竹内街道が国道 170 号線と合流する三叉路にある。大正年間の建立と思われる。

竹 1 4



古市の旧村絵図（部分） 延宝 5 年（1677）

* 大乘川（西川）の流路は付替え以前のものを示している。また、北端部においてカギ型に短く曲がっているのは東高野街道で「大坂街道」と書かれている。東高野街道・竹内街道は、ともに集落の出入り口付近で直角に曲がっている。近世城下町と同様な、防御への配慮があったものと思われる。

竹 1 5



A photograph of a street scene in Japan. On the left is a light-colored building with a meter. In the center is a stone pillar with vertical Japanese text. To the right is a street with a shop, a person on a bicycle, and a traffic cone.

A photograph of the main hall of the Miyajima Taisha Shrine. The building features a traditional Japanese architectural style with a dark, tiled roof and a prominent entrance. The shrine is surrounded by lush green trees, and a paved path leads to the entrance.

竹 1 5



竹 1 6





池の中に亀石

竹16



亀石

* **亀石** 当寺の庭池の場所は、「聖武天皇神亀6年（729年）古市郡の人、賀茂子虫が甲羅に「天皇貴平・知百年」（天皇は尊く、平和な治世は百年にも及ぶ）の文字を刻んだ亀を発見した場所と伝えられている。瑞亀発見により年号は「天平」（てんぴょう）と改元され、子虫は賞と位階を受け、古市郡住民は1年間租税を免除されたと昔から伝えられている。昭和54年、庭園の改修工事の際に亀によく似た石が発見されたので、保存するため池の中央部に安置された。（説明板）

また、竹内街道に戻り少し東へ進むと東高野街道と合流する蓑の辻の四つ辻に出ます。この四つ辻に大きな道標が立っています。大坂街道の出発地点でもあります。



竹内街道を大和路と刻んでいます

竹17



西面	北面	南面	東面
上の太子たゑますぐ 高野山 左 大和路 つぼう坂 大峯山 金剛山	右 大坂 すぐ さかひ	嘉永元年 京都 井筒屋 戊申九月 九兵衛建	古市蓑の辻 補助 森田知英

⑧ 竹内街道と東高野街道の交差点、通称「蓑の辻」に立ち、両街道に残る道標のなかでは最も大きく、彫りも深い。嘉永元（1848）年9月に、京都の米問屋井筒屋と古市の豪農森田氏により建立された。文面から見ると、道明寺方面から東高野街道を南進、あるいは堺方面から竹内街道を東進してきた旅人を対象にしたものと考えられる。「すぐ高野山・金剛山」とは、まっすぐに東高野街道を南下するという意味である。（東高野街道と同じものです）



現在：蓑の辻会館

羽曳野市商工会館

大和銀行古市支店

年代不明：看板が読めない

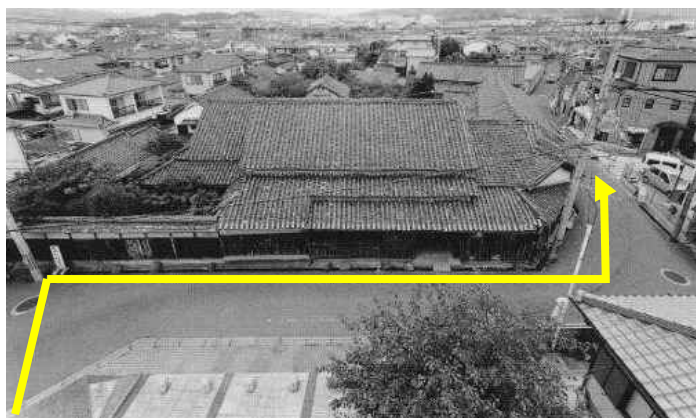
余談 現在は「蓑の辻会館」となっている建物、2007年12月まで羽曳野市商工会館として使われていた旧富田林銀行古市支店の建物、旧羽曳野市商工会館は、1910（明治43）年頃の建築で、富田林銀行古市支店として建てられたものである。1961年11月まで大和銀行古市支店として使用されていたが、支店が駅の西側（現在地）に新築移転した後は羽曳野市の商工会が譲り受けて商工会館として使ってきた。しかし、明治期の建物はさすがに維持していくのが困難となり、ついに建て替えられることになったものである。経営が蹉跎した富田林銀行は1934年に野村銀行に吸収され、本店は現りそな銀行富田林支店に、そして古市支店は現羽曳野支店となっている。

蓑の辻から100m程東へ進むとカギ型の突き当りになり街道は右折します。突き当り右側に「ふれあいスポット竹之内」があり、古市周辺の案内板が設置されています。



竹18





江戸時代の銀屋

竹 18

在りし日の銀屋（清水家）

* 銀屋（清水家） 江戸時代の古市は天領で、宿場町と市場町であったことから、交通・経済の中心地として栄え、両替商銀屋は京・大阪・大和・紀州方面からの旅人や商人のために貨幣（金・銀・銅）や各藩の藩札を交換する業務を営んでいた。 平成 13 年 9 月解体。



竹内街道に面する住宅の南側にあたる母屋・長屋及び酒蔵の外壁には、舟板をリサイクルした舟板塀が施されていた。

銀屋跡の少し手前の小径を左に入ると西琳寺門前に出ます。



竹 19

法起寺式伽藍
東西一町・南北二町の寺域



正面・西面

右
上ノ太子 弘川寺 西行古跡
たゑまつぼ坂 大峯山上

南面・右側

左
大坂 さかい 道

北面・左側

文化十癸酉三月建立
綿新 菊治 銀治

竹 19

⑨ 文化 10 (1813) 年 3 月に、西琳寺の門前に立てられた道標で、参詣者に対して竹内街道および付近の霊場・古跡を案内する。
(東高野街道と同じものです)

もう一度銀屋前へ戻り、力ギ型の街道を東へと進みます。突き当りに、付替えられた大乗川が流れています。街道は左折し北へ少し進みますが、突き当りの大乗川の南側に「金刀比羅神社」があります。



竹 2 0

江戸時代、古市の東町付近は水陸交通の要地であり、古市の渡船場も設けられていました。特に川向への通船や石川を上下する剣先船関係者や商家の人々にとっては、航海安全の神として大変崇敬されていました。金刀比羅神社の傍らには「大乗橋」の碑があり、その前を大乗川が流れています。

金刀比羅神社は昭和の初めに現在の位置に移転されたと伝わるが、元の場所は特定されていません。



＊ 「江戸時代の古市渡船場址」説明板 臥龍橋下流 30m 付近の石川左岸古市側堤防一帯は、江戸時代の初期から幕末にかけ石川流域（柏原～富田林間）を上下していた剣先船の発着場であった。その当時は石川橋が無く、川向い通路を通らせると共に、古市近辺の茶や綿も柏原・平野・京橋方面の旅客も運搬し、柏原において柏原船に連絡させていたものである。
(羽曳野市教育委員会)

竹 2 1



上記航空写真に見られるように、臥竜橋（がりようばし）は付け替えられており、説明板の臥竜橋下流 30m 付近は現在の臥龍橋付近と考えられます。 現在の臥龍橋・平成 7（1995）年 5 月竣工



石川の新・旧 臥龍橋

竹 2 1

* 臥龍橋と命名されたのは、雄略紀九年七月条にみえる飛鳥戸郡の人、田辺史伯孫（たなべのふひとはくそん）の伝承に基づくのだろう。伯孫の娘は古市郡の人である書首加龍（ふみのおびとかりょう）に嫁いでいた。臥龍橋は、この書首加龍の名に由来するかもしれない。

『和田 萃・蘇我氏と古代国家』

臥龍橋西詰に古市墓地があります。霊園内に「小河一敏治水記念碑」が建立されていますが、以前はこの記念碑の土台に「西琳寺」の塔心礎が使用されていました。明治 16 年に土台として王水八カ村の樋門の南堤防上に造立利用され、戦後西琳寺へ戻されています。（羽曳野市史）



記念碑



西琳寺・塔心礎



現在の記念碑

- ・小河一敏（おごうかずとし）
石川の治水と、窮民救済に
努力した堺県知事。
- ・碑文 剣豪 桃井直正の書

竹 2 2

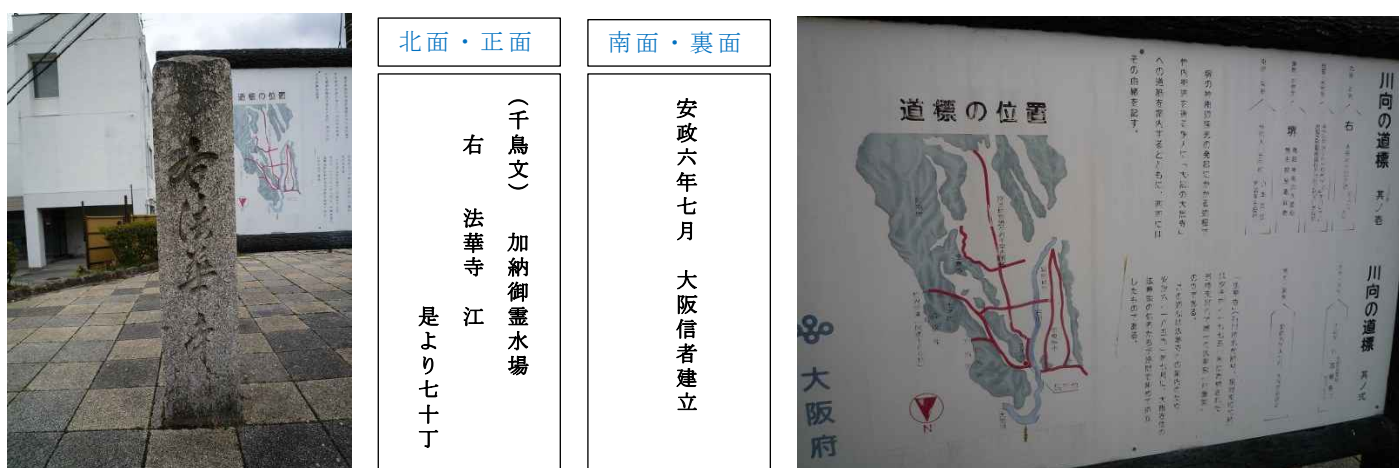
石川を渡り右（南）へと街道は進みます。堤防を東に下る道の横に道標が立っています。



竹 2 3



- ⑩ 堺の神南辺隆光の発起にかかる道標で、竹内街道を通る旅人に「大黒（おおぐろ）の大黒寺」への道筋を案内するとともに、西面にはその由緒を記す。



竹 2 3

- ⑪ 「法華寺」（石川郡北加納村、現河南町加納）は安永 4（1775）年に再建された。当時南河内唯一の法華宗（日蓮宗）の寺である。この道標は法華寺への案内のため、安政 6（1859）年 7 月に、大坂在住の法華宗の信者たちが浄財を集めて造立したものである。

堤防上の道は千早街道とも呼ばれているが、竹内街道は道標の手前を東に下り進んで行きます。

50m程東へ進み、左（北）へ街道から小径を入ると「川向天神」の小祠があります。



川向天神



竹 2 4



舟入り址

現在、祠は撤去され案内板と石柱だけが残されています。

「古市川向いの問屋町と舟入り址」 石川の臥龍橋を渡った付近から駒ヶ谷の地藏堂付近にかけての一带は、江戸時代の中期より明治の初期にかけて「古市問屋町」といわれ、十数軒の河

内木綿問屋が軒を並べて繁栄していたところで「遊郭」も存在していた。古市付近の農家から集めた木綿を石川の剣先船（10 石積みの平底船）に載せて、大坂の綿屋に運搬していたらしい。また川向いの天神さんといわれるこの小祠付近には「舟入」といわれる船着場が存在したようであり、水路で石川と飛鳥川の合流点付近に通じていたらしいが、明治元年（1868）と18年の石川の大洪水で流失したあと、復旧しなかった。（昭和54年9月、松原市の旧家文書から、問屋町のすぐ北側に「舟入り」といわれる荷物の発着場が存在したことが判明した）

（河内ふるさとのみち・説明板）

（2024.7 中村）

『五街道の道しるべを巡り歩く』を終えて

竹内街道はここから東へと進み、「駒ヶ谷の一里塚」「十一面観音菩薩像と地蔵菩薩像」「杜本神社の隼人石と藤原永手公の墓」「月読橋と伊勢燈籠」「役行者錫杖水の道しるべと地蔵菩薩像」「反正天皇の假宮萁址」など、多くの見所が続きます。

東高野街道から始まり、長尾街道、古市街道、巡礼街道と今回の竹内街道をご紹介しますが、年々街道沿いの風景も変化しており5年10年も経つと様変わりしています。

できれば、歩いて、無理ならば自転車でそれぞれの街道を時間をかけてゆっくり散策すると、新しい発見もあることをお伝えして、今回の街道シリーズを終了致します。

長い間お付き合い有難うございました。 中村 雅樹

主な引用・参考文献

『藤井寺市史』 各節編

『藤井寺市史』 十巻 絵図

『藤井寺市史』 十巻 史料編八下

『広報ふじいでら』 2016年7月号

『藤井寺市文化財第七号』 「河内の古道」

『羽曳野市史』 別巻

『羽曳野市史』 七巻

『文久山陵図』 新人物往来社

『竹内街道道しるべ』 太子町立竹内街道歴史資料館

『西国三十三所名所図会』 第四巻 臨川書店

『河内名所図会』